Science News

Vol. 4　2022年11月

この度の台風15号に被災されましたこと、心よりお見舞い申しあげます。
また、復旧にあたり、たくさんのボランティアの方、自衛隊の方などご協力を頂き、ありがとうございました。
弊社では、今回の災害を受けて従来想定していた被害予想では対応できないと考え、BCP（事業継続計画）の見直しを行っております。
今後紹介できればと思います。

労働安全衛生規則等の一部を改正する省令案概要等

労働安全衛生規則関係

（１）事業場における化学物質に関する管理体制の強化

（２）化学物質の危険性・有害性に関する情報の伝達の強化

（３）リスクアセスメントに基づく自律的な化学物質管理の強化

（４）化学物質の自律的な管理の状況に関する労使等のモニタリング

（５）化学物質に起因するがんの把握の強化

有機則・特化則・鉛則・四アルキル鉛則・粉じん則等関係

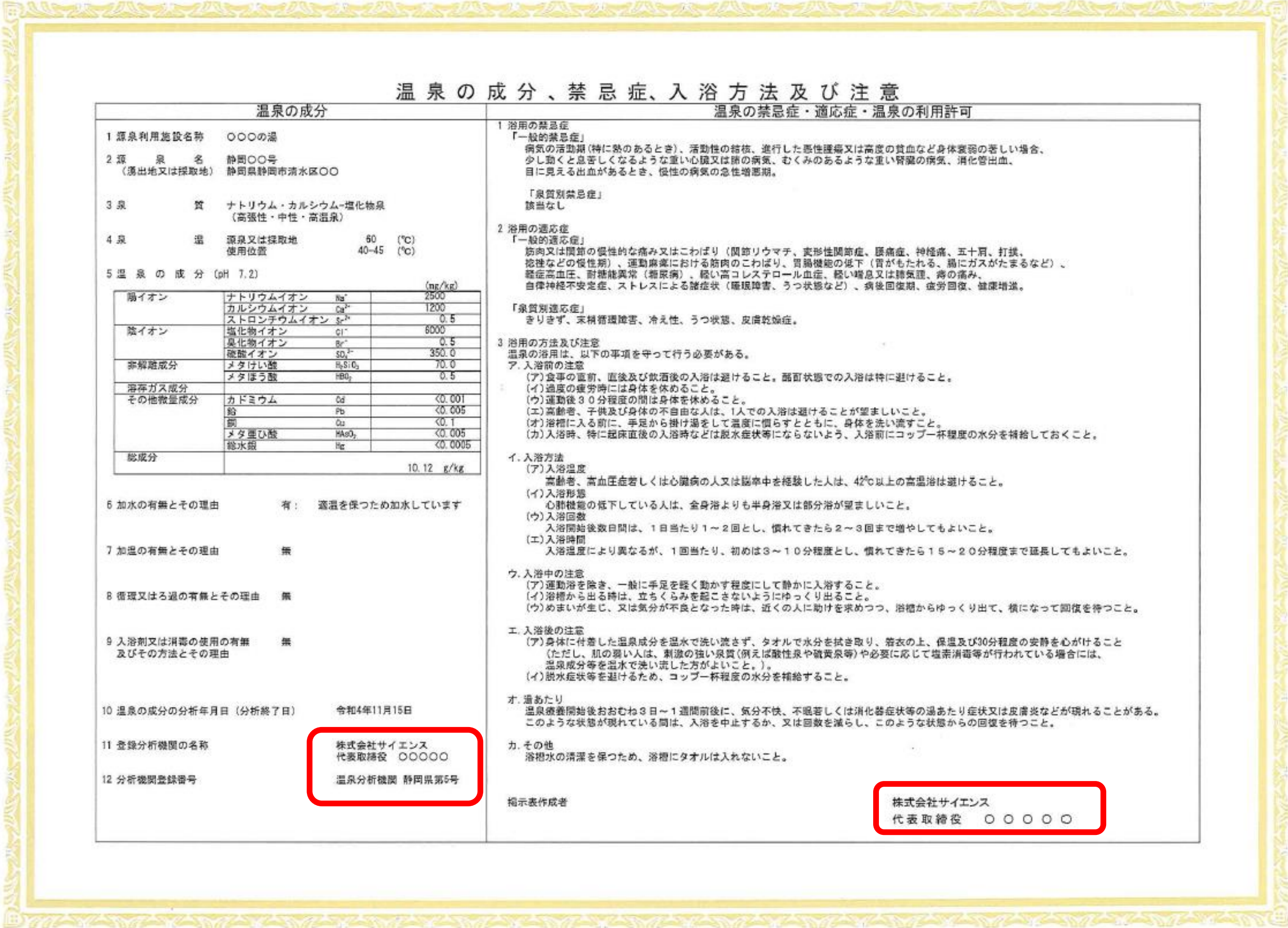
（１）化学物質管理の水準が一定以上の事業場の個別規制の適用除外

（２）作業環境測定結果が第三管理区分の事業場に対する措置の強化

（３）ばく露の程度が低い場合における健康診断の実施頻度の緩和

上記のように強化されるものや緩和される規則があります
詳しくは弊社HPを参照ください

弊社業務のご紹介（温泉調査編）



温泉の成分、禁忌症、入浴方法及び注意

温泉の成分

1 源泉利用施設名称　〇〇〇の湯

2 源泉名（湧出地又は採取地）　静岡〇〇号　静岡県静岡市清水区〇〇

3 泉質　ナトリウム・カルシウム-塩化物泉（高張性・中性・高温泉）

4 泉温　源泉又は採取地　60（℃）　使用位置　40-45（℃）

5 温泉の成分（pH 7.2）

			(mg/kg)
陽イオン	ナトリウムイオン	Na^{+}	2500
	カルシウムイオン	Ca^{2+}	1200
	ストロンチウムイオン	Sr^{2+}	0.5
陰イオン	塩化物イオン	Cl^{-}	6000
	臭化物イオン	Br^{-}	0.5
	硫酸イオン	SO_4^{2-}	350.0
非解離成分	メタけい酸	H_2SiO_3	70.0
	メタほう酸	HBO_2	0.5
溶存ガス成分			
その他微量成分	カドミウム	Cd	<0.001
	鉛	Pb	<0.005
	銅	Cu	<0.1
	メタ亜ひ酸	$HAsO_2$	<0.005
	総水銀	Hg	<0.0005
総成分			10.12 g/kg

6 加水の有無とその理由　有：適温を保つため加水しています

7 加温の有無とその理由　無

8 循環又はろ過の有無とその理由　無

9 入浴剤又は消毒の使用の有無及びその方法とその理由　無

10 温泉の成分の分析年月日（分析終了日）　令和4年11月15日

11 登録分析機関の名称　株式会社サイエンス　代表取締役　〇〇〇〇〇

12 分析機関登録番号　温泉分析機関　静岡県第5号

温泉の禁忌症・適応症・温泉の利用許可

1 浴用の禁忌症
「一般的禁忌症」
病気の活動期（特に熱のあるとき）、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期。
「泉質別禁忌症」
該当なし

2 浴用の適応症
「一般的適応症」
筋肉又は関節の慢性的な痛み又はこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）、運動麻痺における筋肉のこわばり、胃腸機能の低下（胃がもたれる、腸にガスがたまるなど）、軽症高血圧、耐糖能異常（糖尿病）、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状（睡眠障害、うつ状態など）、病後回復期、疲労回復、健康増進。
「泉質別適応症」
きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症。

3 浴用の方法及び注意
温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。
ア. 入浴前の注意
(ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
(イ) 過度の疲労時には身体を休めること。
(ウ) 運動後３０分程度の間は身体を休めること。
(エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。
(オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
(カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、入浴前にコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。
イ. 入浴方法
(ア) 入浴温度
高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。
(イ) 入浴形態
心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
(ウ) 入浴回数
入浴開始後数日間は、１日当たり１～２回とし、慣れてきたら２～３回まで増やしてもよいこと。
(エ) 入浴時間
入浴温度により異なるが、１回当たり、初めは３～１０分程度とし、慣れてきたら１５～２０分程度まで延長してもよいこと。
ウ. 入浴中の注意
(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
(イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
(ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽からゆっくり出て、横になって回復を待つこと。
エ. 入浴後の注意
(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること（ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質（例えば酸性泉や硫黄泉等）や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。）。
(イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。
オ. 湯あたり
温泉療養開始後おおむね３日～１週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。
カ. その他
浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

掲示表作成者　株式会社サイエンス　代表取締役　〇〇〇〇〇

こんな分析書見たことありませんか？
温泉の脱衣所等に掲示されることが多いこの分析書、実は弊社の名前が記載されているかも!?
静岡県は国内3位の源泉数を誇る、有数の温泉地。温泉水を管理するため10年に一度、成分分析が義務付けられています。弊社はこのような温泉分析を承っています。ぜひお問合せ下さい。

株式会社 サイエンス

HPも見てね！
http://www.science-c.co.jp/